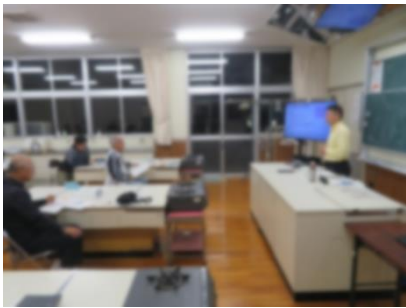


学校運営協議会記録

第3回 学校運営協議会		令和6年11月 22日 金曜日	
内 容	1 副会長あいさつ 2 新委員紹介 3 参加者紹介 4 最近の学校の取組について 5 講話 6 協議 7 閉会あいさつ		
名前	内 容		
副会長	○新委員紹介 ・上黒崎自治会 A 委員 → 校長より辞令書の交付		
教頭	○参加者紹介 ・アドバイザー 長崎大学教育学部 准教授		
	○最近の学校の取組について ・長崎大学体験学習（4～6年） ・ふるさと遠足 （1・2年…湿地公園、3・4年…枯松神社、 5・6年…遠藤周作文学館、夕日が丘、大城公園） ・育友会環境整備活動 ・アウトリーチコンサート（ピアノ、バスクラリネット） ・元気アップファミリーフィット ・かんころ餅作り体験 等		
講師 （アドバイザー）	○講話（校長より講師紹介） テーマ「大学が求められている事柄から地域による教育可能性を考える」 ※別紙資料あり （0）自己紹介 ・出身地（長崎との地形や気候による違い） （1）なぜ、私がここにいるのか？ ・大学体験（キャリア教育、ふるさと教育） （2）今、大学が求められている課題や可能性 ・交流で、大学／学生／教員は何を学んだのか？ →大学の魅力を発見 ・大学／教員は地域や学校に何を期待し／されているのか？ （3）長崎大学の紹介 ・日本最古の歴史と世界唯一の経験を有し数多くの優秀な人材を輩出 （4）皆さんとの対話から地域の教育課題を考える ・大学や大学生が児童のみならず、地域とつながりを持てるのか？ ・地域が大学や大学生とつながりを持てるのか？その必要があるか？		







学校運営協議会記録

	(5) 「総合知」の獲得を目指した大学の役割 ・「外海じまんカルタ」につまった総合知
A委員	・長崎大学での体験は子どもたちにとって新鮮な取組になったと思う。 (自分たちのこどものときには考えられないこと)
校長	・大学体験に、委員の方が参加し、様子を見るのは可能ではないか。
B委員	・大学生が地域に関わることについて、草刈に大学生が関わってくれている。
講師	・大学生がそれぞれ個人で関わるだけでなく、集団で関わるができないかと考えている。
B委員	・大学体験を経験した子どもたちの追跡調査をしたら面白いのではないか。 ・一般の人が受けられる講座などはあるのか。 出張講座で地域に来てくれるとありがたい。 →講師：オンラインなどですることも可能。
講師	・蓄積型体験学習は「遠い」という理由で、大学生の希望者いなかった。 →C委員：我々が迎えに行くというのはどうか？
校長	・小学校の活動（ふるさと遠足、かんころ体験）などに、学生を参加させると「外海」にも目を向けてくれるのではないか。それだけの魅力がある場所。
D委員	・外海文化市に大学生（多文化学部）が来ている。 ・そとめっこ発表会に大学生を呼ぶのはどうか。
教頭	○協議 ・そとめっこ発表会…12月8日（日）子どもたちの学習の成果、音楽発表、 地域の方による音楽発表 ※発表会後に学校評価を行う。
B委員	・12月11日（水）…お煮しめの講座（黒崎地区公民館）定員10名
E委員	・12月14日（土）…ゆうこうの摘み取り、ゆうこうゼリー作り
校長	・運動場の国道側にゆうこうの木を植える予定
副会長	・ゆうこうを使ったソースを作っている。（レモンステーキのような）
教頭	・12月18日（水）ネットワークパトロール <次回>・第4回 2月27日（木） 改めてグループラインにて確認
副会長	○閉会あいさつ ・日頃から子どもたちのためにサポートをしていただき、ありがとうございます。 ・講師の先生におかれましては、興味深いお話をありがとうございました。今後とも子どもたちのためによりしく願います。